光の家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 131号 —

2005年1月10日発行

主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。

創世記 第二章七節～九節

謹賀新年

新生園々生6名が新成人として誕生しました。

撮影　武村 弘幸

あけましておめでとうございます

新しい希望の年を迎えました。旧年中は当法人事業—視覚障害者福祉のために格段のご厚情を賜り、まことにありがとうございました。今、ここに新春を迎え、世界平和と心身の障害を背負う人々への福祉施策が一層充実されるよう改めてお祈りする次第です。昨年は国内外に天災、人災等の様々な悲惨な事件が続発しました。人々の心の痛みは治まるを知らない程です。しかし、すべての希望をこの新しい年にかけたいと存じています。

本年も皆様にとって佳き年でありますように切にお祈り申し上げます。変わらぬご支援をお願いいたします。

平成一七年　元旦

社会福祉法人　東京光の家

役・職員一同

巻頭言

会報発行について

理事長　田中　亮治

（1）

昨今、あらゆる社会福祉法人が機関誌と言うか、所謂「会報」なるものを発行し、その団体の事業目的や基本理念・その活動内容等を一般社会に知らしめ、又、収支内容をも公開する努力を積極的にしています。わが法人も、以上の趣旨において、それなりの努力を重ねて参りました。そして、このような会報を発行し、皆様に一方的に押しつけるような形でお送りしてきました。こんな次第で、貴重なお時間を煩わし申し訳なく存じています。何卒お赦し頂きたくお願い申し上げます。

当法人の場合、「広報活動委員会」という専門委員会が設置され、各施設からの委員によって構成されています。この委員会が年五回の会報発行の任にあたっています。毎号の内容は委員会の話し合いで決められます。

この広報活動委員会の活動目的は次のようになっています。「光の家の事業内容を内外に知っていただくために、会報『光の家』を年間五回発行することによって施設の考え方と事業内容を紹介し、施設に関係する方々に理解を得る」との目的をもって、この会報発行の作業にあたっているところです。

（2）

私の手許にも、各方面の施設から毎月実に夥しい程多くの「会報」が届けられてきます。これに一とおり目を通すだけでもかなりの時間を要します。しかし、折角各法人施設が一生懸命努力して作られた会報であると思うと、可能な限り読ませて頂き学んでいるところです。

それでは、私ども東京光の家が年数回発行している「会報」ははたして皆さまに読んで頂けるような内容になっているでしょうか。こんな事を考えると、まことに忸怩（じくじ）たるものがあります。毎号巻頭言を書いている身として、発行ごとに自らの稚拙な文に歯痒い思いを強くするばかりです。文だけでなく、内容の軽さにいつも恥ずかしさで一杯になるのです。それでも性懲りもなく、長年に亘って発行し続けるのは、「広報活動委員会」の諸氏が大変熱心であることと、当法人施設の福祉サービス・実践活動の内容を少しでも知って頂きたい熱意によるものです。

会報五言

一、為政者が襟を正すとき社会は落ち着く。為政者が、まず国民（たみ）のために自己犠牲を払うなら社会は一変する。

一、優位の立場にある者が、下位の者の倖せを優先させるなら、世の不祥事は半減するであろう。

一、社会改革はまず上からするもの。然もなければ独裁国家になるか、規制・規制の社会になるだけ。

一、真理と善を志向しない知識は悪魔と悪知恵と自己の利益のみを確保したがる知識で終わる。これを欲張りの知識という。

一、真理と善と愛と結びつかない権力者は国を滅ぼし、人々を不幸にし、世の悪徳を更に増やすだけ。

（3）

「文は思想なり」という言葉をどこかで読んだことがあります。満足できる文を書けないのは、思想の貧困のせいかも知れません。

何はともあれ、施設の福祉事業は営々と続けていかなければなりません。ここに生活する二二〇余の盲人たちは、障害の重い重複の人たちが多くいます。が、みんなその障害の重荷につぶされることなく、自助の精神を忘れず一生懸命に生きています。

私は、この人たちが単に施設の中だけの生活に終わらず、可能な限りその生活圏を広げ、様々な事を通して社会参加を実現いたしたく願っています。

このような小さな会報ではありますが、発行ごとに、利用者に対して激励のことばをお寄せ下さったり、又、ボランティアとして登録下さる方が増えたり、行事等にご招待下さったり、施設訪問をして下さったり、所謂「障害者と社会との交流」の輪が広がる役割を発揮しつつあります。

私ども東京光の家の会報は、ようやっと一三一号に達しましたが、その歴史は古く、昭和三九年一二月一日が創刊号です。

ともあれ、私たちの能力（ちから）はほんのささやかなものでしかありませんが、この会報を通して施設福祉の実態をできるだけ詳しく知らせていきたいと考えています。そして、盲重複障害者の方々が重い障害のハンディを克服しながら一生懸命に生き、自分たちの人生を全うしようと頑張っている姿を描写するよう努力いたしたいと考えています。少しでも皆さんに読んで頂けるような紙面づくりに励む所存です。

何卒変わらぬご指導ご鞭撻たまわりますようお願い申し上げます。新年は皆さまにとって佳き年でありますように！

正秋バンド ふるさとコンサートを開催して

NPO法人北障連・北上市障害者団体連絡協議会
代表　小田嶋　義幸

一一月一日、さくらホール大ホールは満席だった。正秋バンドふるさとコンサートの幕は上がった。万来の拍手に迎えられて演奏が始まった。最初から、一気にもりあがった。ステージと客席が一体となって、ひとつの世界が生まれた。

コンサートの計画を始めたのは四月の初めだったと思う。昨年から誰ともなく、正秋バンドのことが、口に上った。でも、実際に来てくれるだろうか未知数だった。

しかし、田中亮治理事長は、一本の電話に「いいですよ！」と、出演の承諾をしてくれた。どのような団体か、一言も聞かないで即座に、快く承諾してくれた。

私達の団体は、市内の七つの障害者団体が集まって出来た小さな団体である。資金もなく、ただノーマライゼーションの理念に沿った、障害者のＱＯＬ（生活の質）向上を目的に活動している団体で、ＮＰＯ法人も二月に取得したばかりであった。

田中理事長の温かい承諾によって準備が始まった。

小田嶋代表を囲んで、正秋さんのご家族と別れを惜しむ

このような大きなイベントを開催するのは二回目だった。それも、ポスター作りからすべてなんでもやるのは初めてで、経験者はひとりもいなかった。

事務局を設置し、協力ボランティアを募り体制を整えた。

高橋正秋さんは北上市出身である。たくさんの人たちに正秋さんの歌を、ピアノを聞いて欲しかった。

熊谷健さん、鎌田浩之さんも岩手県出身である。正秋バンドは郷土の誇りである。

重度の障害を持っても堂々と中央で活躍している正秋さん達の輝きを、開館したばかりのさくらホール一杯に照らして欲しかった。

コンサートは一五〇〇席の客席を三階まで埋めた。

障害を持っている人も持たない人もすべての人が感動し、サウンドに酔いしれた。

眼の不自由な人、車いすの人、知的に障害のある人、心に病を負っている人などいろいろな障害を持っている人たちも聞いた。耳の不自由な人は手話通訳の奉仕で聞いていた。

年老いた人も若い人も心を熱くして感動に震えていた。感激で涙する人もいた。

こんなに素晴らしいコンサートは生まれて初めてだ。もう一度聞きたい。もっとたくさんの小中学生にも聞かせたかった、との感想が多い。

私は一九歳でリウマチを発症して、二〇代の十年間を寝たきりで過ごした。今は、電動車いすで、障害を持っている仲間の生活支援を行なっている。

人生は一度きりだ。悔いなく過ごしたいと思っている。

正秋バンドふるさとコンサートも悔いのないように精一杯頑張った。

コンサートは成功した。これは正秋バンドと東京光の家の力強い協力のお陰だ。心から感謝している。

各施設のトピックス

身体障害者更生施設　光の家新生園

OUR JOB

平成一六年度には、およそ五〇年ぶりの社会福祉の制度改革により支援費制度が施行されました。そして、利用者個々との契約による個別支援計画に基づいた福祉サービス事業が始まり約九ヶ月が経過しました。

新生園の作業訓練では園生作業作品の製品化に向けての具体的な動きが始まりました。春の会報では園生、職員の意気ごみ、またその体制などを述べさせて頂きました。

現在のところ、手芸、籐細工そして職能訓練の成果を活かしたノート作り等が製品活動の中心です。そしてこれらの活動時間も年度当初より確保することが出来、九ヶ月を経過する中でしっかりと定着し、順調にオリジナルの製品が出来上がっています。製品作りに従事する園生はこの変化にも慣れ、今やプライドを持って意欲的に取り組み完成に間に合わない時は夕方の五時まで時間を延ばして頑張った時もありました。その姿を見ると大変頼もしく思いました。

池袋西武百貨店に展示された製品の数々

中でも製品として完成度がとても高いのは織り機を駆使したマフラーやストール、テーブルセンター等です。この織り機の技術は、新生園開設以来今日に至るまで永年に渡ってご指導いただいている手芸講師の笠井久美子先生のご尽力によるものです。そして先生のご理解により昨年の一一月に開催された手織り「VEGA」クラフト展に販売を主体に展示の仲間に加えさせて頂き大きな収益を上げ、また自信を得ることが出来ました。新生園一同は感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度から始まった新生園での新しい挑戦。スタッフとして園生の意欲、プライドのある姿を無駄にしないように、今後も心のこもった製品を外部での販売等を通して内外に広めたい。そしてこの実現のために、今後多くの機会に作業スタッフ一同で行動していきたいと思います。

（新生園訓練課主任　武村弘幸）

身体障害者授産施設　光の家栄光園

心繋いだ沖縄の旅

光の家栄光園は、去る一一月一〇日～一三日に開設三〇周年の記念旅行として沖縄に総勢一〇〇名で行ってまいりました。三日間天気は晴れ、真夏のような暑さのなか、貴重な体験とおいしい郷土料理に大満足の旅となりました。

さて、利用者にとって、旅行が本当に充実したものになるかどうかは事前の取り組みが重要です。行った先で様々な体験や知識を深めることができれば更に心に残る旅行になると思います。そこで今回は「体験と交流」をテーマに旅行の準備をすすめました。

一日目の見学先である、「ひめゆりの塔」。余暇の時間を利用し、この場所に纏わる映画を鑑賞しました。戦争の悲しい事実を初めて知る利用者も多く、ショックを受けていましたが、せっかく行くのだから何かみんなでできることはないか?と考え、千羽鶴を捧げることにしました。視覚障害の利用者にとって鶴を折るということは、大変難しく根気のいる作業ですが、毎日こつこつと折り、心のこもったオリジナル千羽鶴が出来上がりました。当日は、「ひめゆり学徒隊」として戦争を体験された方からお話をうかがい、またセレモニーとして手渡しで鶴を捧げることができました。みんなの温かい気持ちが嬉しいと喜んでいただき、貴重な経験となりました。また、二日目の黒糖作りでは、畑に行って実際にサトウキビを触り、それから生のサトウキビをかじって甘さを実感しました。その汁を煮込んで、みんなで棒を使ってぐるぐるとかき混ぜ、黒糖を作り上げました。栄光園の名入りのパッケージに包んでくださり、よいお土産となりました。体験の後には、現地の方が奏でる琉球舞踊に、みんな自然に体が動き、笑顔と笑いが絶えない時間となりました。

沖縄の方の優しさに触れ、また様々な経験を通し、みんなの心に温かさが繋がった三〇周年にふさわしい旅行となりました。

（栄光園授産課　室屋安希）

黒糖作りにチャレンジする園生たち

救護施設　光の家神愛園

外部販売への想い

一一月に入ると、神愛園の作業場はいつも以上に活気にあふれていました。それというのも、一一月は学園祭に始まり日野産業祭、日野社協バザーなど外部販売が目白押しで我が神愛園の作業場の面々もなんとか自分の作品を仕上げ、販売までに間に合わせようと張り切って作品作りに取り組んでいたからです。

ある園生は「今回はいくつ僕の作品を持っていくの?」と気にしたり、「今回は普段と違う形の作品を作ったから売れると良いな～」など自分の作品が外部の人の目に触れ、買って頂けることを願っています。私たち職員も園生が一つ一つ心を込めて作ったすばらしい作品が少しでも多くの人の目にとまり、その作品に込められた想いを感じてもらえればと販売にも力が入ります。景気低迷が叫ばれている昨今、百円均一ショップや量販店など大量生産で同規格の既製品が多く出回っているため、同じ形に作ることが出来ない手作りならではの、非常に味のある作品に足を止める方も大勢いらっしゃいました。一つ作品を買って頂くたびにその作品を一生懸命作った園生の顔が思い浮かんできて、喜びもひとしおでした。そして販売が終了すると、私たちの帰りを待っている園生達がいるのです。「おかえり」と同時に「今日の販売はどうだった?」「木工は売れた?」「陶芸はどう?」など私たち職員へのねぎらいの言葉はそこそこに、自分たちの作品への関心に話題は集中します。自分たちの作品が売れた時などは「やったー!!」と本当に嬉しそうに喜び合っています。次の作品作りではこんな工夫をした方が売れるのではないか、あの作品はいまひとつ反応がよくなかった等々、また次の販売に向けて私たち職員と園生の試行錯誤とあらたな挑戦がはじまるのです。

（神愛園作業指導係　情野直人）

盲人ホーム　光の家鍼灸マッサージホーム

◎真心をこめた仕事で、皆様の健康に奉仕させていただきます。

血圧計も設置しています
ご自由にご利用ください。

営業時間（電話予約制）　午前九時～午後八時
定休日　毎週水曜日
電話　〇四二（五八一）七一〇九
料金　はり　四、〇〇〇円
　　マッサージ　三〇分　二、五〇〇円
　　七〇分　三、八〇〇円
　　一〇〇分　五、〇〇〇円

※毎月一日はサービスデー、五〇〇円割引

機能回復を考えた食事作りを目指して

現在、光の家でも高齢化や機能低下が進み、食事の介助を必要とされる方が年々増えています。食事課としては一口でも多く食べていただく為、柔らか御飯、おかゆ、副菜の刻み、極刻み、ペースト食など試行錯誤の毎日です。しかし、歯科医の視点から従来の刻み、極刻み食では咀嚼（そしゃく）、嚥下（えんげ）機能の低下を引き起こし、誤嚥性（ごえんせい）肺炎の原因を作ってしまうと言う事を先日の研修会で学びました。誤嚥性肺炎とは加齢に伴う摂食嚥下機能の低下、唾液量の減少、感覚機能の低下、消化吸収機能の減少等が原因で起こり、高齢者の死亡原因の八割を占める肺炎のうち、その大半は誤嚥性肺炎と言われています。主な症状としては微熱が続く、元気がない、食欲不振、意識レベルの低下、尿失禁等があります。食事形態での予防として舌でつぶせる硬さでのど越しがよく、口腔内に残留しない物が効果的との事です。解り易い表現をすれば、ゼリーのようなイメージだと思います。今まで取り組んできた事が逆の事だと知り、悩まされた話です。最近、高齢者の方にも骨折予防の為、手足の筋力トレーニングをするとの事です。噛む事の大切さは医学的にも証明されていますが、機能回復させる為には介護者、及び食事課、本人の意識等、課題は多いと思います。医師、歯科医、介護の立場では意見が違い、迷うこともありますが、多方面の意見を取り入れ、一つ一つ改善していければと思います。近年、研修会等で、刻み食の利用者の人数や状況を発表する意見も多いですが、逆に何人減らすことが出来た等の実績を作るのもこれからの課題の様な気がします。食事課での現在の取り組みとしては、口腔内の殺菌をかねた緑茶ゼリーを提供しています。今後も、美味しく、楽しく、健康に奉仕する事を基本とした食事作り、又、機能回復を目的とし、個々の支援が出来ればと思います。

（食事課主任　木戸場健一）

法人施設役員

理事長・評議員
田中亮治

常務理事・評議員
田中のぞみ

理事・評議員
相澤忠一
菅野秀郎
小坂惠児
篠崎友照
杉山閑男
松本栄二

監事
川又義治
藤田洋

評議員
安藤璀
石川左門子
岩島清
遠藤文子
加藤保武
亀岡寛治
佐川勝宣
藤巻三勉
山下

（五十音順）

園生の声　二〇〇五年の抱負

成人式を迎えて

光の家新生園　高見　健大

僕は、平成一六年六月一六日で二〇歳になりました。

子供の頃は、札幌から久我山、そして八王子盲学校に転校しました。八王子盲学校の文化祭で、劇のナレーターをしたことです。怖いこともありました。学校から駅までの下校中、車にぶつかりそうになり、白杖が折れそうになりました。それ以来、一人通学は出来なくなりました。

新生園に入所して、学校とは違うということが分かりました。食事で色々な食べ物が出されます。嫌いなものが多いから大変です。もう一つは、布団の上げ下ろしが大変です。でも、少しずつ上達できるように頑張っています。今まで何も出来ないと思って他人に頼っていたけれど、ちょっとずつ自分で出来ることを増やしていきたいと思っています。

新年の抱負

光の家栄光園　千葉　俊彦

今年は、作業と正秋バンドに、昨年以上の活躍ができるようにがんばっていきたいと思います。作業では、今は点字製本をやっています。作業を通していろんな文章に出会い、言葉の難しさを本の中から学び、書き物が好きになりました。今年は、点字名刺の印刷や製版・パソコンを使った仕事など、新しい作業にも挑戦してみたいです。また、正秋バンドは昔はじめた時よりも上手くなったと感じるようになりました。オリジナルの曲を皆で作れるようになり、これからもみんなに楽しんで聴いてもらえるよう演奏会をたくさんやりたいと思っています。皆さん応援してください。今年一年、色々なことに一生懸命がんばり、また明るく楽しい栄光園を作っていきたいと思います。

大好きな民謡とともに

光の家神愛園　長谷川　桂子

私は昭和八年九月、秋田県能代市で生まれ、昭和四四年東京光の家に入所しました。当時の若い田中のぞみ先生に面接して頂いた時「秋田から来ている人が一杯いるので安心して生活してください」と言って下さいました。でも昔は泣き虫でした。何でもいやだと言えなくて直ぐ泣いていました。秋元先生や奥様にも大事にされ、だんだん変わりました。ある時、家族が面会に来て私が明るく元気なのに大変驚きました。今年は私の干支になります。民謡が大好きで”秋田おばこ“と”生保内節“が得意です。今春二月、日野市民会館の民謡大会で「下津井節」を披露します。自分の年齢に合った楽しい事の一杯ある神愛園で今年も又一生懸命頑張っていこうと思います。

保護者会

変わりゆく福祉政策を見つめて

下坂智恵子

ふるさと創生といって税金をばらまいたり、思いつきの福祉事業に補助金を押しつけたりしたバブルの時代が終わって世の中は大きく変わりました。今は、これらの事業は縮少されたり、中止になったのもありますが、本当に支援を必要とする事業への福祉政策が、国の財政事情ということで後退していくのをみると、これからの日本の福祉政策の方向は、どのようになっていくのだろうと心配になります。

今、私達の子供や身内が生き生きと生活している『光の家』のような障害者施設の無用論が言われる理由は、国の財政難の為、施設に補助金を出さない、支援をしないということでしょうか。施設を利用している私達は贅沢なくらしを望んではいません。施設を出て、在宅で家族だけの狭い世界で生活していれば人間の尊厳どころか精神的に追い詰められて、共倒れしてしまいます。介護者が疲労困ぱいして悲惨な結末を迎えてしまった例を私はいくつか見てきました。人は人に支えられ、勇気を頂いて生きています。しかも現時点で、在宅の要支援者とその家族を支える組織やスタッフが整っている所は、どのくらい有るでしょうか。親や家族が倒れた時はどうなるでしょう。常に、田中理事長は「利用者に選ばれる施設をめざしています。」とおっしゃいます。私達は、光の家を選びました。これからも『光の家』を心身の落ち着く居場所としていきたいと希望しています。『光の家』とのご縁を得て二〇数年になりますが私は、理事長の信念と真摯なお考えを尊敬する気持ちはずっと変わりません。園生達の安定した生活を支えて下さる職員の方々に心から感謝と信頼を寄せています。長男一也の『光の家』での二〇数年の人生は、私達家族の人生でもあります。施設入所制度が変わり、私達は自らの意志で『光の家』を選び利用しています。施設の無用論が唱えられる真意は、どこに有るのでしょう。施設の存在がどれ程心強く家族の支えとなっているか、私達も声を出していきたいと思います。

「みつばちマーヤ」のご案内

この度、菅野秀郎理事のご尽力により、日本のプチ・ファーブルと呼ばれる生物画家の熊田千佳慕先生（九三歳）が、東京光の家のために絵本「みつばちマーヤ」を描いて下さいました。

この絵本は私達に命の大切さ、親と子の絆、家族の絆に支えられて、みんなが仲良く愛を持って生きていくことを教えてくれます。是非、一度ご覧ください。

※この絵本の収益金はすべて、障害をもつ人達のために役立てられます。

《お問い合せ先》東京光の家
TEL　〇四二（五八一）二三四〇
定　価　二〇〇〇円（送料別）

鳩巣会設立五〇周年記念コンサート

立川での演奏会の興奮が冷めやらぬ一〇月二日、開幕から安定感のある演奏と迫力に、多くの観客からの声援を受け、愛のサウンド以上の演奏会にしようという熱意が感じられました。

ところで宇都宮といえば餃子が有名なのですが、当日は食べることができませんでした。が…主催者側に知らずと表情が訴えていたのでしょう。後日、光の家全員分の餃子が届きました。

正秋バンドは餃子パワーでますます頑張ります。皆様に支えられての正秋バンド、感謝の気持ちでいっぱいです。

北上市ふるさと公演

秋の収穫も終えた一一月一日岩手県北上市さくらホールに於いて、北障連主催「障害者の日記念事業」としてコンサートが開催されました。小雨降る肌寒い日でしたが、立ち見が出るほどの大盛況に関係者一同、感謝とともに、ふるさとの温かさを熱く感じたコンサートでした。

正秋バンドメンバーには、岩手県出身者が三人おり、彼らは故郷に錦を飾ることが出来、思い出に残る一日になったことでしょう。

終演後は家族や恩師、友人とのうれしい再会があり、満ち足りた顔々には、「郷土の誇り正秋バンドここに在り」を感じました。

ボニージャックス来演！

去る一一月一〇日、光の家講堂にボニージャックスの皆さんが来園して下さいました。「小さい秋」や「大きな古時計」など、誰もが耳に慣れ親しんだ曲を中心に、素敵な四重唱と、今日に至るまでにあった数々の秘話?を聞かせて頂き、会場は大盛況。また、正秋バンドとのジョイントでは「いい日旅立ち」を熱唱。更には、田中理事長が正秋バンドのために作詞した「どんな花でも生きている」に曲をつけて下さいました。それは、とても親しみやすいきれいなハーモニーの曲でした。

宇都宮での鳩巣会設立50周年記念コンサート
アカペラによる「アメージング・グレイス」

ボニージャックスがやって来た！

正秋バンド 東社協会長表彰受賞

一二月二一日『第五三回東京都社会福祉大会』において正秋バンドが東京都社会福祉協議会会長表彰を受賞しました。内容は「地域福祉支援貢献団体分野」で、盲重複障害に負けず、音楽療法に励み、年間二〇回以上に及ぶコンサートを全国各地で行い、海外公演も実現。演奏会を社会参加の機会として、社会に対して障害者の理解を深め、地域交流の進展に貢献し、ノーマライゼーションの実現を具体的に実践したことが受賞の理由。当日は、アカペラで「アメージング・グレイス」、繁さんのピアノ・正秋さんのボーカルで「群青」を熱唱しました。受賞後、正秋さんが「この受賞を嬉しく思います。これからも、光の家の皆と一緒に続く限り頑張っていきます。」と挨拶をして大きな拍手を頂きました。

堀田力東社協会長より表彰を受ける

寄付者名簿

平成二六年一〇月一六日～一二月一五日

社団法人日本音楽事業者協会様　シンセサイザー　二台
モニタースピーカー　四台
ミキシングコンソール　二台
ボニージャックス様、岡崎裕美様　CD　五枚
社会福祉法人鳩巣会 理事長 森好明様　餃子　一〇五〇個
財団法人昭和池田記念財団様　パソコン　二台他
㈱ハウジング恒産様　ポータブルシュレッダー　一台
いちご　二四〇個
東京電力㈱八王子営業所様　点字図書、テープ図書　二七巻
㈲介護ショップりんりん様　ポータブルトイレ　一台
日野社会教育センター様　あずき　三kg
民生児童委員調布地区協議会様　タオル　一三〇枚
洗濯用洗剤　四箱
化粧石鹸　六七七個
佐々木信也様　みかん　三〇kg
小倉知香子様　りんご　一箱
吉川達男様　りんご　四八個
内藤奈津子様　バンケーキ　一〇本
岡野竹江様　柿　一三〇個
菅戸満夫様　綿棒・マスク他、衛生用品多数　七七個
大野かよ子様　柿　二四個
鳥本敏郎様　りんご　一〇kg
鈴木みき子様　洋ナシ　四八個
土屋正和様　梨二四個、りんご二八個、みかん二〇kg　野菜多数
柏田功様　ゆず　五五個
点訳聖書　一〇冊
鮮魚三光様　みかん一〇kg、りんご三六個
永井信子様　醤油一四本、サラダ油六本
鈴木富夫様　みかん　二〇kg
佐藤公生様

シンセサイザー、その他を音事協様より
プレゼントして頂きました

盲重複障害者更生施設入所者募集

当施設では盲重複障害者を対象に利用者個々のニーズに応じて、身辺自立を目指した生活訓練や手指の巧緻性を伸ばす作業訓練、社会参加に繋げるための製品活動や歩行訓練等を総合的にプログラムして提供し、生活の安定と能力の開発に努めています。

【募集人数】若干名

※盲学校中学部卒業以上の方

【問合せ先】東京光の家 入所相談室
電話　〇四二(五八一)二三四〇

12/6 元プロ野球選手で、現在解説者の佐々木信也さんが光の家を訪れ、野球について質問攻めに…

限りない愛に支えられ 第八六回クリスマスを祝う

二〇〇四年一二月一六日、今年も東京光の家にとって一番大切なクリスマスが、沢山のお客様をお迎えして盛大に行われました。会場の講堂には総勢三六〇名が一同に会しました。

第一部「礼拝」は、福祉の実践家で大学教授、松本栄二先生による「幼な子イエスに、わたしは何を捧げられましょうか」と題した記念講演でした。神の御子イエスの御生誕をお祝いし、そして深い感謝の想いをどのように表すか、また神さまの深い愛と共にこの世の救い主であることの確信を得ることができました。

第二部「祝会」では、二七名の聖歌隊によるゴスペルフォークソング「鐘よ響け」「千本のろうそく」「喜びたたえよ」の三曲を力強いピアノに乗せ素晴らしいコーラスでした。続いて、新生園の有志による演劇「銀の燭台」は一九世紀を舞台に牧師の娘の回想シーンから始まるレ・ミゼラブル物語ジャンバル・ジャンのお話を若い園生が各配役を一生懸命に熱演し会場を魅了した一時でした。

第三部「会食」は、八会場に分かれ各会場で心のこもった手作り料理（今年の新メニューは魚貝類にアボカド等が入ったシーフードグラタンパイ）を味わいながら主の御降誕を祝し感謝の中に包まれたクリスマスでした。

（合同行事委員長　荒川エミ子）

あとがき

二〇〇四年、国内外において様々な出来事がありました。台風や地震による大規模な自然災害。地球の温暖化現象。BSE・鳥インフルエンザ・鯉ヘルペス。イラク戦争における人質殺害問題。北朝鮮における拉致問題。非人道的事件の数々。数え上げたらきりがありません。自然界からの警告を、どのように捉えていくのでしょうか。

スマトラ島沖地震、津波で命を失った多くの方々へのご冥福をお祈りし、被災者の方々に対し心からのお見舞い申し上げます。どんな世の中になっても我々は正しい道を歩んでいきたいと思います。会報新年号を元旦にお送りすることが出来ず、大変失礼いたしました。本年も皆様にとって佳き年でありますように、心からお祈り申し上げます。

（M・O）

発行　〒一九一―〇〇六五
東京都日野市旭が丘一―一七―一七
社会福祉法人　東京光の家
電話　〇四二（五八一）二三四〇
FAX　〇四二（五八一）九五六八
編集責任者　田中のぞみ